

# 鉄道認証室の今後の取組について

～時代変化の中でも頼られる  
存在であり続ける～

鉄道認証室 黒川和浩



# 1. これまでの主な成果

今から12年前の2008年6月 交通政策審議会 鉄道部会による提言

今から9年前の2011年4月 交通安全環境研究所に鉄道認証室を設置

今から8年前の2012年9月 我が国初の鉄道分野の製品認証機関として認定を取得(認定対象規格IEC 62425)

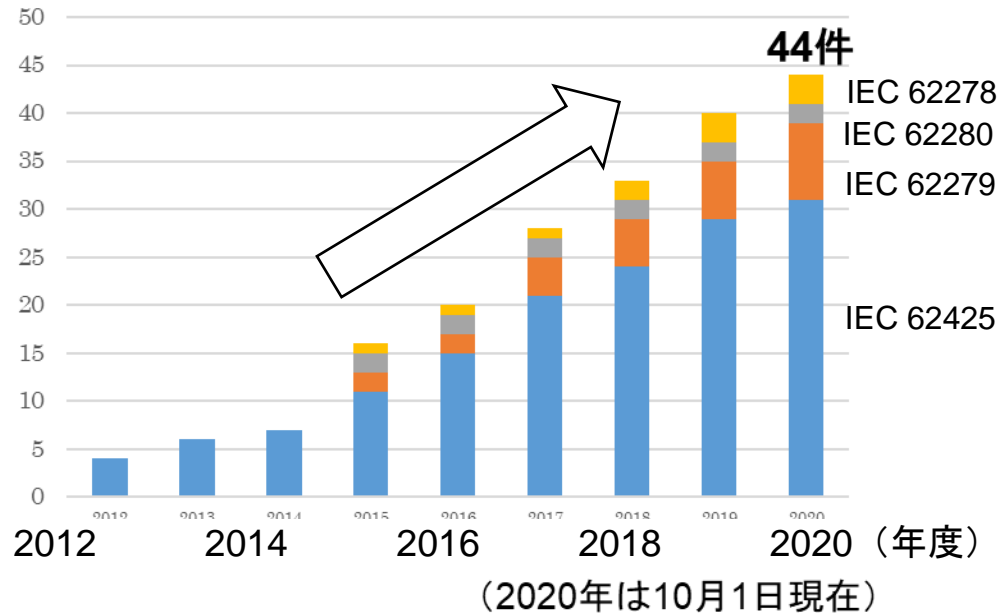
今から4年前の2016年9月 2規格の認証を取得(認定対象規格IEC 62279、IEC 62280)

今から2年前の2018年5月 かねてより要望の多かったIEC 62278(RAMS)の認定を取得

鉄道認証室設置時に認定を目指した規格を、現在、ほぼ全て取得

「今後、我が国の製品の国際規格への適合性評価のあり方を検討する必要がある。」

(件数) 認証書発行実績の推移(累計の規格件数)



## 認証した製品の実績

列車制御システム(車上、地上)、電子連動装置、列車情報制御装置等  
 【種別】Generic製品(汎用)、Specific製品(特定路線)

# 2. 今後の課題及び取組

## (1) 短期的な取組

-製品認証機関に対する国際規格の要求事項を遵守し認定の維持

-認証業務の着実な遂行と、それによる認証実績の拡充

- 広報・情報発信活動の注力
- ① 認証機関としての国際通用性を強化するため、海外鉄道関係者への認知度向上を図る
  - ② 適合性評価の手法を活用した取り組みの重要性に係る情報発信

-継続的な認証スキーム見直し、体制強化等

公平中立の立場から、本邦企業の海外展開や鉄道技術の維持・発展に貢献する

鉄道認証室が製品認証機関としての認定（ISO/IEC 17065）を取得しているIAJapanは、IAFおよびAPACの認定機関同士の国際相互承認取決に署名



IAF: International Accreditation Forum  
APAC: Asia Pacific Accreditation Cooperation



フォーラム2019の会場

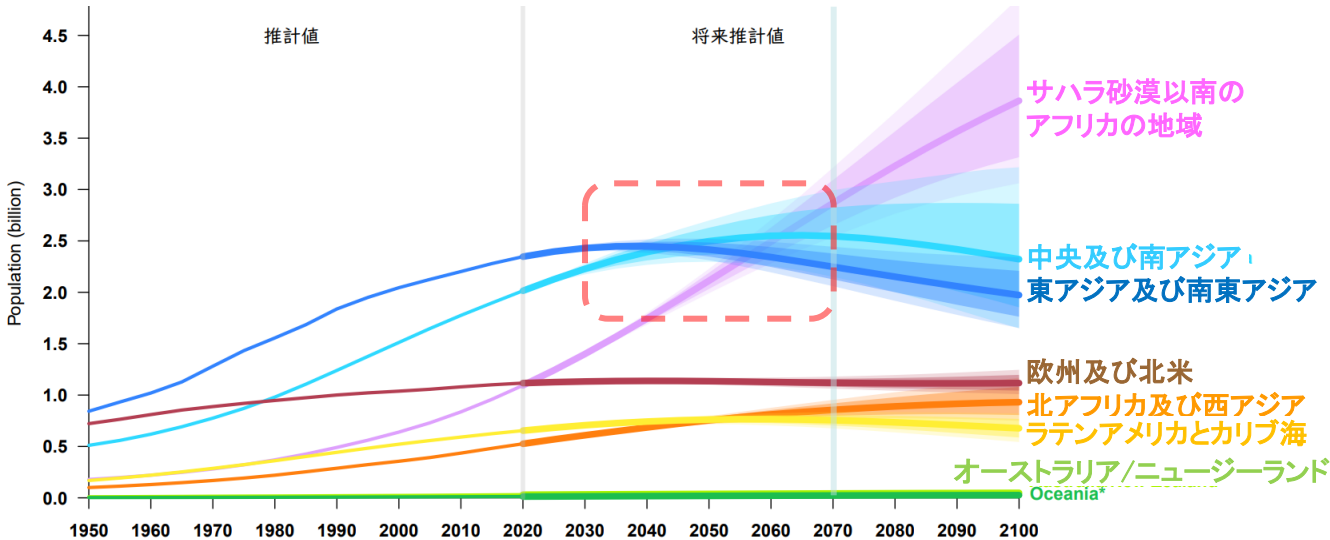


鉄道技術展の展示会場

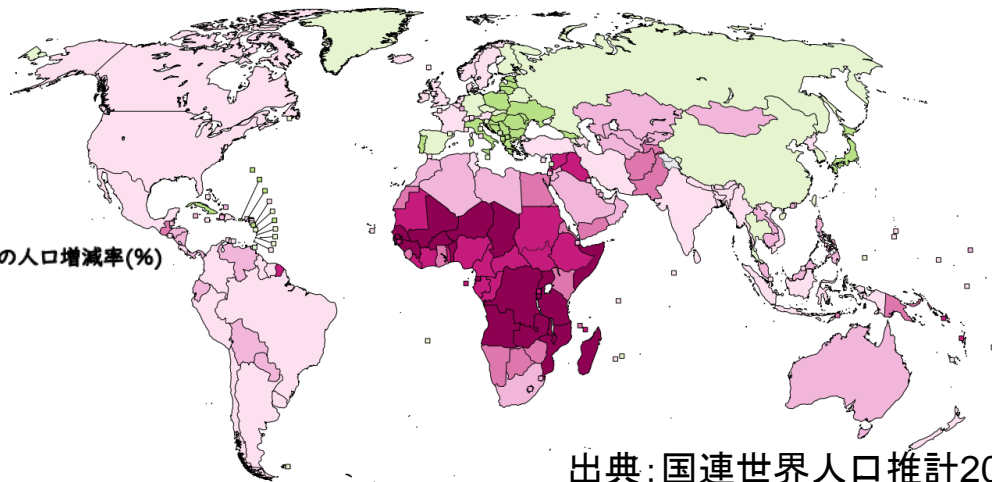


英文パンフレット  
(2019年10月全面改訂)

# (2) 中長期的な方向性



\*ここでは、オセアニアにオーストラリア/ニュージーランドは含まれない



出典:国連世界人口推計2019年版

今から50年後の2070年はどういう世界なのか(一仮説)。



- ・アフリカの一部地域を除いて人口減少
- ・2030~2070年にピークを迎えるアジア地域の需要を取込む必要性



需要発生地が限定された地域になる  
→受注競争の激化

## (2) 中長期的な方向性(続き)

### 製品認証に係る動き(推測)

#### 国内

- ・複雑化したシステムの安全性・信頼性の評価をプロセスで確認していくことが当たり前になっていくのではないかな。
- ・国内でも認証業務は民間セクターで可能となっていく市場環境になっていくのではないかな。
- ・国際競争力をより向上するための方策を考えるべきではないかな。
- ・独立行政法人として鉄道関連メーカー、鉄道事業者の皆様とより連携していくことが必要。

- ・既に、様々な技術分野でシステム等が高機能化、複雑化し、プロセスで確認する必要性が指摘されている。
- ・少子化の進展等に伴う関連技術伝承への取組強化が強く求められている

- ・鉄道製品分野においても、輸出品だけでなく、国内向けにも求められていくと見込まれる
- ・認証業務の案件数が増えれば、認証市場が当たり前のようになるのではないかな

- ・激化する海外の市場において、競争力を増す付加価値を考える必要があると考える

- ・規格適合性評価の手法を活用した製品品質の確保に向けた取り組みの重要性に係る情報発信などにも取り組んでいく



# 3. まとめ

今から50年前の1970年7月 交通安全公害研究所の設立



今から9年前の2011年4月 交通安全環境研究所に鉄道認証室を設置



2020年 認証業務の着実な遂行と、それによる認証実績の積み重ね



製品認証機関に対する国際規格の要求事項を遵守し認定の維持

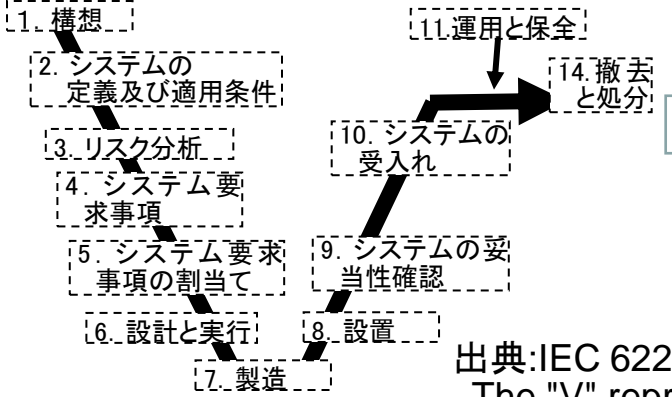


今後とも、引き続き、公平中立の立場から、日本の鉄道技術の海外展開や鉄道技術の維持・発展に、一層貢献

・交通システム研究部による安全性評価等の長年の研究成果、経験を踏まえて、鉄道認証室設置



・我が国の鉄道製品の海外展開に貢献



出典:IEC 62278 Figure-10 - The "V" representationの邦訳

.....鉄道認証室の強みを活かして貢献する

- 日本の技術を熟知
- 電気部門を中心に技術的知見を有する技術者を抱える
- 電気部門を中心に認証実績を蓄積